

## ①異常の早期発見 と ②適切な対応 がポイント !!

患者の安全確保のため、医薬品の投与中から投与後にかけての観察が必要です。

### 医薬品投与時の経過観察

医薬品投与時の安全性確保のための経過観察は、大きく分けて、以下の2つがある。

#### ①投与中から投与後5分間における 急性過敏反応の観察

・アレルギー反応, アナフィラキシー

#### ②投与期間中の継続した観察

・定期的な臨床検査の実施  
(肝機能, 腎機能, 血液, 感染症など)  
※抗がん薬投与時の肝・腎機能・血液障害  
抗体製剤投与時のウィルス性肝炎悪化



### アナフィラキシーの初期症状



痒み



吐き気



冷や汗



腹痛・便秘



息苦しさ

これらの症状を感じたら、医師、看護師、薬剤師に  
伝えるよう、患者さんにご説明ください。

【アナフィラキシーを起こしやすい医薬品】

- ①ヨード系造影剤
- ②β-ラクタム系抗菌薬  
(ペニシリン, セフェム, モノバクタム, カルバペネム)
- ③局所麻酔薬(リドカイン)
- ④タンパク質など高分子物質を含む注射剤(インスリン, 血液製剤)
- ⑤界面活性剤を含む注射剤

※どの医薬品でも、患者の状態により起きることがある!!

#### 【MEMO】

- ① 抗菌薬の注射剤容器のラベルに、ペニシリン、セフェム、モノバクタム、カルバペネムという文字が印刷されています。
- ② 注射剤にするためには溶液にする必要があり、そのために、界面活性剤を加えている注射剤があります。添付文書1ページ目【組成・性状】欄に「添加物」として書かれています。詳しくは、薬剤師に確認してください。